



「ひらほく新聞」で検索！
★感謝で10年目突入 115号★
<http://www.hirahoku.com/>
☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ！

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村 9-4-32 電話 0463-54-2807

「すべては今のためにあったこと」



1,143円+税

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年も「ひらほく新聞」ご縁のお付き合いを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、それぞれの節目に何度も読み返してほしい書籍、以前ご紹介しました寺岡賢先生(まけの)の社会教育活動を実践する修養団、その伊勢道場の元道場長等を歴任された中山靖雄先生(2015年3月8日、天に召されました)のご著書、『すべては今のためにあったこと』をあらためてご紹介いたします。

令和二年、その教えを有難く「魂の道しるべ」として受け取り、「見えない世界の大切さ」を胸に刻み、歩んでいきたいと思います。

【使命】

「未来」に使命はありません。「今」の中にすべてがあります。今のごことを一生懸命やっていたら、必ず使命に出会います。

うためには、天から与えられている役割を喜んでさせてもらうことが大事なのです。「ああ、嬉しいなあ。嬉しい出会いだなあ」と喜ぶことが自分の使命への活力になるのです。そうしているうちに、出会

誰しも自分の人生の意味について考えることがありでしょう。そして、自分の「使命」を生きたいけれど、自分の使命とはいったいなんだろうと、頭で考えて探そうとします。しかし、使命とは「わかるもの」ではなく、自然に「回ってくるもの」なのです。あなたに与えられた使命は、そういう縁に自然と出会わせてもらってはじめてわかるものです。しかし、そんな縁に会おうと思っただけで出会えるわけではありません。

だからこそ、今、そのような「回ってくる」ご縁に会えるように、天から与えられている役割を喜んでさせてもらうことが大事なのです。「ああ、嬉しいなあ。嬉しい出会いだなあ」と喜ぶことが自分の使命への活力になるのです。そうしているうちに、出会

すことができるのです。このように「使命」を知るためには、足元を見ることしかなければなりません。足元とは、生きること、働くこと。

そしてやっぱり、「今」、「今」、「今」なのです。足元に起ることを、必ず

思わされること、出会わせることを大切に、「これが縁なんだな」と、味わって消化していけば「使命」がやってきます。

だから今やっていることを一生懸命やっていたら、新しい「使命」に出会っていくのです。

【過去が咲いている今、未来の蕾で一杯な今】

という河井寛次郎さんの歌があります。「今」には、過去に起こったことすべ

【古くて あたらしいもの】
伊勢の神宮のように、古くて新しいものが常に栄えます。その感覚を日本人は大事にしてきました。

形は二千年のままです。古いけれど、二十一年に一度遷宮をしているので新しい。それがなぜできるかというと、二十一年に一度遷宮をするおかげで、建物だけではなく、装束や金具などをつくる人々が途切れないのです。二十一年おきだから、やった人がまだ生きていて間に次の人に伝えることができる。だからこそ残っていくのです。

すべては今のためにあったことです。つらかった過去もすべて今を喜んで生きるための根になっています。「根となりて 埋もるるもの ありてこそ いのちの実をも 結ぶなりけり」土の中の根のように、見えないところに埋もれてしまったかもしれない過去だけれど、それがあつたおかげで、自分といういのちの実が結ぶことができました。という師匠、蓮沼門三先生の歌です。

「今こそすべて」
そう思っただけで、自分の中に使命を見出しているのです。

「古くて新しいもの」とは何かと言つと、たとえば「親孝行」がそうです。ほかに「魂で生きる」とか、「元へかえる」とか、昔は当たり前前に大事にしていたことが、少しずつ忘れられて、そして今再び新しい感じがあると思つたのです。その姿の最たるものが伊勢の神宮です。

神宮は二十一年おきに遷宮されます。遷宮とは、神宮のすべての建物を二十一年おきにお建て替えることです。二千年前の昔の建物の姿のままでありながら、今そこに新しい姿で存在しています。遷宮の際は、建物だけではなく、橋や装束、金具などもすべてを造り替えています。

日本文化遺産の中には、木造の姿で千三百年前から建っているものもあり

薄れゆく記憶の中で

私の自宅の近くに、母方の祖父が二人で暮らしている。二人共もう八十才以上の高齢である。

私は二人が大好きだ。

数年前から、祖父は認知症を患っている。進行を遅らせる薬を毎日きちんと服用しているが、年々症状は悪化している。

認知症になる前は、よく小学校まで迎えに来てくれたり、我が家の隣りにある畑で農作業をしていた。だから、日焼けした腕は年齢のわりには筋肉がもりもりだ。

ゆっくりと進行していた認知症の症状が、急激に酷くなった時があった。祖母の入院の時だった。祖母がしばらく入院することを説明してその時は理解しても、十分も経たないうちにまた同じ質問をしてきたり、誰が入院することになったのかわからなくなったり、怒りっぽくなったり、頑固になったり……。その時の祖父はまるで別人のようだった。そして、何気ない日常会話の中で急に怒り出すようになった。理不尽

なことでもよく母は怒鳴られていた。

祖父は若い頃から、車が大好きだったそうだ。私が小さい頃からよく車やバイクや大型車など多量の免許を持つっていると、何度も何度も話してくれた。祖父の自慢の一つなのだろう。だから、今社会問題になっていく、免許証の返納の時は、親戚中で大変苦労した。認知症の疑いがあると診断された時、車の運転は控えてくれるようみんなで説得したが、当然納得できない祖父は断固拒否。自分自身、認知症だと理解できていないため、何でもないので、安全にまだまだ運転できるのに、なぜ返納しなくてはならないのかと。母たち姉妹は相談して、口頭でのお願いが受け入れてもらえないのならと、車の鍵を隠した。祖母が入院中の出来事だ。すると、夜中に玄関のチャイムが連打押して鳴り、ドアを開けると泥だらけの祖父が立っていた。車の鍵が無いと、深夜の暗闇の中、庭や畑を探したのだ。当然見つかるはずもなく、途方に暮れた祖父は、暗い夜道を歩いて我が家まで来たのだ。どうしたの？との問いに……

「母さん(祖母のこと)が、どこを探してもいないから、車で探しに行こうと思ったら、車の鍵もないんだよ……。」

「おじいちゃん、色んな事がわからなくなっちゃって、もうやんなっちゃったな。」である。

『老いる』という事は、誰にでも訪れる。認知症の

症状のせいで別人のような人格になることもある。怒りっぽく、頑固なものも症状のひとつのようだ。しかし、私は決して祖父を嫌いになることはない。私には祖父とのたくさんの思い出がある。祖父も薄れゆく記憶の中で、私との思い出をたくさん語ってくれる。

私は祖父と祖母、二人が大大好きだ。(おわり)

近年では85%を超える核家族化。それによって、近所の人や祖父母との接触が減少し、家庭環境も大きく変わり、教育問題にもつながっている。そんな中で和田さんは、大切な幼少期に近所の母方の祖父母お二人との交流があり、こうした素直な愛情表現ができるように育ったことは、本当に素晴らしいことだと思う。

今後さらに深刻化する日本の高齢化社会問題。近年、高齢者ドライバーの事故が多発、運転免許の更新制度や、免許の返納について大きな話題となっている。身近でも家族に勧められて、ついに来春返納する予定だという一人住まいのシニアの方のお話を聞いた。

令和二年、そうした方々に少しでも何かしらのお手伝いができればと新たな取り組みを計画中です。

心事徹底

我勝道

編集後記

以前、書籍『生き方の極意』や小冊子をご紹介しました。例えニサケの松岡浩会長が昔から「人生の師」と仰ぐ憐イエローハットの創業者、鍵山秀三郎さん。(NPO法人「日本を美しくする会」の創業者で現相談役)

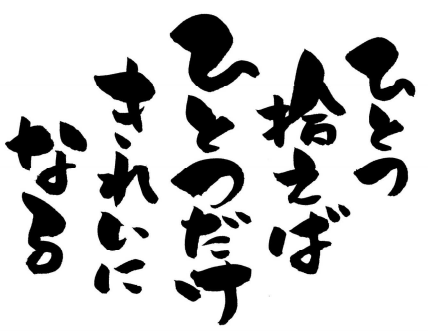
「トイレ掃除の神様」とも呼ばれ、「物を整理し掃除することは頭を掃除することでもあり、ムダや汚れに気づくようになる」と、自らが率先して創業以来続けてきた「掃除」が世間の評判を呼び、のちに掃除運動が内外に広がることとなりました。

令和二年、一年を通して鍵山さんの座右の銘を毎月ご紹介していきます。

当紙で以前ご紹介した、岐阜県郡上市在住、生きるための基本原則と人を幸せにし、世界平和に貢献する知識と技術を教える塾、人生学習塾『格闘塾』の塾長山田一夫さん(通称どやさん)は、昨年遺贈を迎えてもなお、心身共に鍛え続けている。2年前から授業はスマホでZOOMというアプリで行っており、全国各地に定期的に講演会も開催しながら、旅先でも変わらない授業を継続。当神奈川へも定期的に来ていただき、この喜れには半年ぶりに、少人数でたっぷり深い学び、教えをいただいた。

どやさんが、朝夕二度の発行を長年続けている「人生学習塾『格闘塾』」の<https://ameblo.jp/gashodo/>のトップには、次のような中山靖雄先生のメッセージが必ず載せられている。

まずは昨年の振り返り。読売新聞の読者が選ぶ日本10大ニュースの一位は「天皇陛下即位。「令和」に改元」、2位が「ラグビーW杯日本大会開幕、日本8強」。個人的にも新時代到来、ズバリこの二つだった。そして、逆の「災い」では「台風被害」。今年の一文字は何?と、どやさんから質問で自分がとっさに浮かんだのは『風』。あの台風19号上陸時の「命の危険を感じたあの一夜」から「自分の風が変わった」と感じたから。台風以外にもあれこれ非常に大変だった一年が、それ以後いろいろなことが上方修正され、良い流れが来ていると実感。ということ、大嘗宮参拝時に奇跡的な虹にも出会えたり、2020年、五輪イヤーは、思いきり変化・挑戦の年に!と思っていた矢先……。暮れの20日、不注意で転倒、右膝を強打、軽傷で済んだが、大事な時期に数日不自由な思いをした。すべてに意味があると有難く受け取った。



大切なことは、一步を踏み出す勇氣。具体的には、足元のゴミを拾う実践から始めることです。足元のゴミひとつ拾えぬ人間に何ができますでしょうか。

新年、やりたいことリストも大事だが、なかなかやめられない「やめることリスト」の方がもっと重要だと、どやさんから、勝間和代さんの教え。年頭にあたり、まず取り組みたい。

中山靖雄先生のお言葉(三重県伊勢市「修養団」)

中山靖雄先生の書籍紹介を決定。繋がるご縁に大感謝です。『我勝道』とは?ぜひ、ブログをどうぞ!

中山靖雄先生のお言葉(三重県伊勢市「修養団」)